

学校番号	2	学校名	静岡視覚特別支援学校	校長名	佐々木 雅則
------	---	-----	------------	-----	--------

(1) 目指す学校像 校訓「明るく強く」

① 教育目標 「自立と社会参加を目指し、可能性を広げる」

- 興味を持ち、夢や目標に向かって主体的に知識・技能及び習慣を身につける。(確かな学力)
- 自他を尊重し、コミュニケーションをとって行動できる態度を身につける。(豊かな心)
- 生活のリズムを身に付け、運動に親しみ、健康でたくましい体をつくる。(健やかな体)

② 具現化の柱

【育む】一人一人に応じた、基礎的・基本的な知識・技能及び習慣を育む。

【守る】安全安心で生き生きと生活できる豊かな学習環境を整える。

【つながる】視覚障害教育の情報発信の充実を図ると共に、校内外の連携・協働体制を整備する。

(2) 本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

◎チームによる継続的で持続可能な視覚障害教育(しずしは つづくよ どこまでも)

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
【育む】	○幼児児童生徒一人一人に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。	○学習指導要領を踏まえた授業づくりと学習評価に努め「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業改善と指導の充実。 ○多様な他者と学び合う集団づくりや交流及び共同学習を推進。 ○教材・教具やICT機器等の活用。	○チーム研修を中心に、幼児児童生徒の日々のあられや事後研から授業や指導の改善につなげることができた。 ○学年学部を超えた活動や他校との交流、外部講師の活用を通して多様な他者と学び合う場を設定することができた。 ○授業や日々の指導の中で個別のニーズに応じた情報機器の活用をすることができた。 ○点字図書、拡大図書、電子書籍、触る絵本など視覚専門の図書を、幼児児童生徒が親しむ場を設定したり、指導に活用したりすることができた。	研修課 各学部 寄宿舎 教務図書 情報課 交流担当 自立活動課 事務部
	○教職員の専門性維持・継承。	○新任者研修や自立活動学習会等の校内の研修と校外研修の伝達等を通じた学び合いの実施。	○ニーズに応じた新任研修や学習会が企画・運営されることにより教職員の専門性が向上した。	自立活動課 研修課 各学部 寄宿舎
	○幼児児童生徒が自己の将来をデザインするキャリア教育推進。	○キャリア教育学習プログラムやキャリア・パスポートを活用し計画的にキャリア教育を実施。	○幼児児童生徒のキャリア形成を見据え、目標を立てたり振り返ったりすることができた。 ○面談の際にキャリア・パスポートを提示して検討することができた。	進路担当 各学部 寄宿舎
	○生涯にわたって健やかに生きるための健康づくりの推進。	○幼児児童生徒が運動や食、自分の体に関心を持ち自ら関わり、生活に定着する指導の実施。(食育、体力づくり、保健)	○日々の生活や学習の中で食の話題を取り上げたり、授業に関連させたりしながら幼児児童生徒の食への興味関心を広げることができた。	保健体育課 各学部 寄宿舎

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
【守る】	○幼児児童生徒の個性を尊重し、互いの良さを認め合うウェルビーイングの高い学校づくり。	○教職員が人権感覚を高め、幼児児童生徒の自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場、安全安心な風土を醸成。 ○教育活動全体を通じた幼児児童生徒の「自己指導能力」の獲得をめざした指導。	○人権研修会や人権感覚チェックを実施し、人権感覚の向上を意識することができた。  ○人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通じて人権教育を行うことができた。	生徒指導 防災課 各学部 寄宿舎
	○幼児児童生徒が安全で安心して生き生きと学習できる環境整備。	○感染症、アレルギー対応、緊急時対応等の対策の徹底と周知。 ○視覚障害に対応した学びを支える校内環境整備及びヒヤリハット事例の共有と対策の徹底。 ○発災時における時系列に沿った行動計画の見直しと共有。	○緊急時の対応を把握し、教職員間で連携して適切に対応することができている。 ○アイマスクや弱視レンズでのシミュレーションを通して校内環境について考え、整備や見直しをすることができた。 ○避難訓練や防災研修を通して、発災時における自身の役割を理解し、行動できた。	保健体育課 生徒指導 防災課 自立活動課 各学部 寄宿舎 事務部
【つながる】	○超早期から成人まで切れ目のない連携支援体制の充実。	○関係機関と連携した、早期教育、教育相談の充実。 ○地域に向けた理解推進活動の充実。 ○在籍幼児児童生徒の個別の教育支援計画を活用した連携体制の推進。	○関係機関と連携し相談者のニーズに応じた支援活動ができた。 ○視覚障害教育の理解推進に向けて関係機関への訪問や地域への情報発信ができた。 ○幼児児童生徒や保護者が支援に係る関係機関とその役割が分かり、適切につながっている。	地域支援 各学部 寄宿舎 特支コーディネーター
	○チームで業務に取り組む効果的で心理的安全性の高い環境の維持向上。	○自他の多様性を尊重し、風通しの良い環境づくり。 ○業務内容の精選や会議時間の効率化による指導準備や教材研究の時間確保。	○同僚や保護者、関係機関などの個性や立場の違いを認め合い、尊重したかわりができた。 ○会議や業務を計画的に進めたり、ノー会議デイを活用したりすることで、授業や指導に関わる業務の時間を確保することができた。	管理職 各学部 寄宿舎 教務図書 情報課 事務部
	○地域や家庭、関係機関との連携・協働体制による地域ぐるみの教育の推進。	○地域の施設や人材などを活用した学習活動や職員研修等を推進。	○地域資源を活用して幼児児童生徒の経験をひろげたり、学びを深めたりすることができた。 ○地域の人材を活用して研修し、教職員としての資質向上に繋げることができた。	各学部 寄宿舎 各分掌
		○幼児児童生徒、保護者に向けた、進路や関係機関の機能など将来を見据えた情報提供。	○幼児児童生徒や保護者のニーズを把握し、必要とする進路や支援の情報を提供することができた。	進路担当 各学部 寄宿舎 特支コーディネーター
		○学校運営協議会などを活用した、地域や静岡南部特別支援学校等との目標や課題の共有と連携した取組。	○よりよい教育の在り方や地域のニーズについて学校運営協議会委員や静岡南部特別支援学校と共有し実現に向けて協働することができた。	企画会 各学部 寄宿舎 学校運営協議会 静岡南部連絡会
○新校開校を見据えた視覚障害教育の持続と包括的な共生を意識した学校づくり。	○専門教育を持続できる環境設定のための関係機関との協働。 ○様々な障害等の多様性を認め合い包括的に共生するための研修等の推進。	○新校のより良い学校環境づくりについて県教委や静岡北特別支援学校等と協働するとともに教職員が知的障害教育等について理解を深めることができた。	静岡地区 新特別支援学校設置検討委員会	